

# 若者応援企業 100社 就職フェア

厚生労働省大阪労働局は11月18日、大阪市北区梅田のグランフロント大阪で「若者応援企業 就職フェア2013」を開く。若者の採用・育成に熱心な若者応援企業を宣言している企業約100社が参加する。

大阪府内の「若者応援企業」は423社（平成25年10月18日現在）で、今回はそのうち約100社が参加する。今年7月、大阪で開催の就職フェアに参加した学生ら818人を対象にしたアンケート調査では、「若者応援企業を知っていますか？」の問いに66・6%が「知らない」と回答。また「会社選別に若者応援企業であるかを参考にしますか？」の問いには、58・4%が「参考にしない」と回答した。



梅田・グランフロント、11月18日

# 学ハ口大阪新聞

発行所  
厚生労働省 大阪労働局  
大阪府労働センター10F  
〒530-0017  
大阪市北区角田町8-47  
阪急グランドビル18階  
TEL 06-7709-9455  
FAX 06-7709-9458  
<http://osaka-young-site.mhlw.go.jp>

\*\*\*\*\*

## 第2号

2013年10月29日

- 1 11月18日に若者応援企業就職フェア
- 2 わたしの就職活動日記
- 3 ものづくりの継承 若い力で ▼facebook を開設
- 4 就活悩み相談室

## 「若者応援企業宣言」

一定の労務管理体制が整備されており、若者(35歳未満)のための求人を出し、採用・育成に積極的で、通常の求人情報よりも詳細な企業情報・採用情報を積極的に公表する中小・中堅企業が「若者応援企業宣言」を行う。

その理由として「情報をオープンにしている会社ほど信頼できる」「職場に活気がありそうだから」「就職にやる気があるため」「初めて知ったが、この制度はうれしい」との声が寄せられた。フェアの対象者は、来春卒業予定の大学・短大・専門学校(卒業後3年以内の既卒者も含む)と35歳未満の求職者となっている。

## 割り箸くわえて「ミッキー」と言おう

### 就職フェア前に 各種セミナー

11月18日開催の「若者応援企業 就職フェア2013」に先立ち11月5日から8日まで、フェアのための直前対策セミナーを大阪新卒応援ハローワークなどで開く。講座では笑顔の作り方「写真」やお腹から声を出す方法、お辞儀や立ち居振る舞い、履歴書



### 笑顔の作り方、写真の見せ方学ぼう

最近、若者の「使い捨て」が疑われる企業等が社会的に大きな問題となっていること。から今後、「若者応援企業」はますます学生の注目を集めよう。

に貼る写真の見せ方などを学び、学生たちの内定獲得に生かしてもらおう。日程は次の通り。予約が必要。

▼5日(火)「話し方好感度UP講座」。正しい敬語、電話のかけ方、好感の持てる「話し方」を習得。

▼6日(水)「見た目も大切講座」。第1部「第一印象UP編」人の印象は初見で大きく決まる！髪型やスーツの着こなし、面接マナー、お辞儀や立ち居振る舞いなど、見た目の好感度をUP。第2部「ESに飛びつきの写真を貼ろう編」。応募書類に貼る「写真の見せ方」をプロのフォトグラファーがレクチャー。

▼7日(木)「自己PR術&グループ面接の極意」。避けて通れない自己PR、個人面接より緊張するグループ面接。自分らしく輝くための極意を伝授。

▼8日(金)「会社を知る」参加企業直前研究ゼミ。企業が求める人物像をコンパクトに伝える。(中面に詳報)



公立大学文学部 4 回生 女性

# 1人で頑張ろうとは思わないで

「もう何を、どうしたらいいかわからない」—6月下旬、大阪新卒応援ハローワークの窓口で会った彼女は、ずっと涙をこぼしていた。通過しない書類、面接に進めない焦りにもがく毎日だった。そんな時、出会った一冊の本と父の言葉が彼女の心を変えた。苦しみの過程で出会った言葉とは。そしてジョブサポーター（JS）との関わりは、10カ月に渡る就職活動を振り返る。

## ◆どんな就職活動だったか。

3回生の12月は焦りもなく合同企業説明会があれば参加していた。やりたいことがあってもなかった。しかし、今年3月に大手銀行のOB、OGから、手持ちの求人が少な過ぎると指摘され、初めて焦った。ESを甘く見ていた。

## ◆まさにどん底だった。

夏ころ、「そもそもなぜ働きたいのか、就職して何なのか」と生活全体を改めて見つめ直した。そんな時、一冊の本と

就活ノートと運命の本



何か、求人票を見て志望動機をどれだけ語れるかを考えた。いつも指名するJSにESを添削してもらい、「そんな見方があるんだ」と気付くこともある。意識を変えることで書類が通過し始め、最終面接に残ることが増えた。そんな時、ハローワークで一件の求人が目に留まる。生活用品を製造する会社の企画営業職だ。「作り手側から、世の中に新しい価値を生み出す仕事」だと思った。気持ちをESに込め、その思いを、面接で素直に伝えた。良い商品を作ろうとしている姿勢を感じ、「入社したい」との思いが募る。今までになく感覚だった。

## ◆苦しい時の気分転換は。

オーケストラのサークルで演奏に集中し、たこ焼き屋での接客のアルバイトでは積極的に大きな声を出した。先輩の前では自信を持てるし弱音も吐ける。今思えば就活からの現実逃避だった。ただ、振り返れば、そんな場所があった。良かったと思う。就活ノートには予定やその時の気持ちなど何でも書いた。1カ月1冊くらいかな。

## なぜ働くのか、志望動機に思い込め

れるか、商品や事業に込めた思いを本当に理解しているのかを見たいのではないか。やる気、熱意を見ているのだろうか」と言われ、私の中で何かが変わり始めた。

## ◆自分の中で何がどう変わってきたのか。

「一番大事なこと」が何かを考えるようになった。履歴書は志望動機欄があるものに変えた。本当にしたい仕事は

## ◆そして内定を得た。

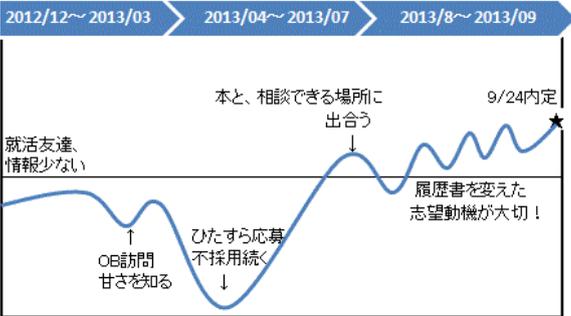
二次面接も万全の準備で臨んだが、意外にもぎっくばらんな面接で拍子抜け。帰宅後に内定の連絡を受けた。不採用が続いていたのでうれしかった。反面、最終面接があると思っていたので「え、これで内定？」と。同時に「こ

## ◆就活を振り返って感じることは何か。

就活中は落ち込むことがいっぱいある。だが、苦しいからと逃げないで、自分の気持ちを言える場所を見つけて欲しい。私はそれがJSだった。動くことで気付くこともたくさんある。

## ◆その時の気持ちは。

とにかくしんどかった。面



# ものづくり継承、若い力を

日本経済を牽引してきたものづくりの中小企業。独自の技術力と営業力で海外との取引も活発化している。景気も上向き傾向を示す中、技術力の継承も視野に新卒採用に力を入れているが、充足できていないのが現状だ。大阪新卒応援ハローワークの企業説明会「レギュラーマッチングブース」利用企業に、新卒採用の現状と課題について聞いた。

## 就活に役立つ キーワード



### 機械設計や建設、電機製作会社 人材確保、積極的に

創業41年の大阪市内の機械設計・製造会社。売上高4億円、社員35人の中小企業だ。主要顧客はタイヤやゴルフボールなどの製造メーカー。リーマンショック以降、顧客企業の海外進出に伴い、海外現地向けの注文が増加。現在も2年分の受注を抱える。

納入先は中国やタイ、ブラジル、インドネシア、トルコ、南アフリカ。設計や製造だけでなく、納品した機械の保守や、現地技術者への教育など同社からの技術者派遣の要請も増えているという。

拡大するビジネスチャンス。だが、その一方で、深刻な問題に直面している。仕事はあるが思うように人材が確保できないのだ。

同社では平成24年度、大卒の技術者ら6人を採用。今年はずでに6人を採用し、さらに機械技術者2人、電気（制御系・情報系2人など計6人を確保したいと考えたが、充足できていないのが現状だ。

同社は「今年は景気が向上基調で、大企業が積極的に採用を進めている。特に理工系は顕著だ」と分析。「うちも早めに動いているが、やはり中小企業。学生がなかなか振り向いてくれない」と嘆く。

同社では海外向け受注の増加を見込み、10年以上前からベトナム、フィリピンを中心とした外国人技術者を積極的に採用。今では、従業員の約半数となる15人が設計、製造部門を支える。

今後はタイに進出した取引先企業に対応する営業拠点を設けるため、引き続き人材確保と育成に力を入れる考えだ。

「ベテランの外国人技術者は海外に。国内では学卒の人材を確保し、育成に充てたい」と同社。理工系出身者を採用したいが「ものづくりに興味があれば文系の学生にも枠を広げて採用したい」考えた。今年より積極的に自社のPRに努めてきた。「少しずつだが、技術力のある当社の強み、学生に浸透してくれれば」と期待をかける。

人材確保に悩むのは建設業界も同じだ。

売上高10億円、松原市内の建設会社。道路や橋梁の補修工事など公共事業は例年、9月以降に受注が始まるが、今年4月ごろから順調に推移。政府の国土強靱化計画も追い風で今後も受注の増加が続くと見込む。このため新卒を中心に大学の企業説明会にも足を運ぶ。同社は「理系出身にこだわらない。意欲があれば文系卒でも採用したい」と意欲を見せる。

八尾市内の電機製作会社は当初、新卒のみの採用だったが、既卒3年以内の枠を広げた。「ものづくりにはやはり技術の継承が必要だ。若手から育てるなら新卒、既卒の枠は関係ない」と言い切る。

## 直前セミナー詳報



11月18日の「若者応援企業就職フェア2013」対策として開く直前セミナーでは、面接での正しい敬語の使い方や、企業に電話をかける際に必要なマナー、入退室のお辞儀の仕方Ⅱ写真Ⅱなどを学ぶほか、参加企業について理解を深める研究ゼミが行われる。

5日の「話し方好感度UP講座」では、応募先の会社から自分から問い合わせの電話をかける時のポイントや、面接での敬語、丁寧語の正しい使い方をも具体的な場面を設定し、ロールプレイを交えて学ぶ。

お腹からしっかりと声を出す腹式呼吸法、割り箸をくわえることで口角をあげ、印象的な笑顔をつくる方法も合わせて体験してもらう。

8日の「会社を知ろう！参加企業直前研究ゼミ」では、ハローワークのスタッフが一般求人（既卒者向け）を出している参加企業約40社を事前に訪問しインタビュー。各企業が求める人物像や、やりがいなど、生の情報を応募者に伝え本番に生かしてもらう。開催場所は、あべのわかものハローワーク。

## facebook 始めました

大阪新卒応援ハローワークでは、就職活動に役立つ多くの情報を発信するため「学ハロ大阪新聞」を発行することになりましたが、さらに多くの方に大阪新卒応援ハローワークを知っていただくため、facebookを開設しました。

「大阪新卒応援ハローワーク」で検索していただくと、ページが表示されますのでぜひ、ご覧ください。「いいね!」で、ひとりでも多くの方に大阪新卒応援ハローワークのことを広めていただきたいと思います。

**(質問)**  
「志望動機がうまく書けません。面接でも的確に答えられません。どうしたらよいでしょうか」

**就活悩み相談室**

**(回答)** 多くの方の悩みがこの志望動機にあるようです。では採用側はこの志望動機で皆さんのどういうところを見ようとしているのでしょうか。

りません。「なぜ当社でないのだめなのか？」に答える必要が  
あります。  
私は志望動機を3つの動機(きつかけ)に分解して整理  
することを勧めしています。  
一つ目は「企業への興味、関  
心のきつかけ」、二つ目は「自  
身の体験、価値観から感じた  
きつかけ」、三つ目は「長所  
強みなどの身についたこと」を  
会社で貢献できると思ったき  
つかけ」です。  
具体的に説明しますと、

**企業への興味、自身の体験、  
貢献できる長所、強みを再確認**

それは、「当社へ入社して働きたい」という応募者の志と意欲、  
熱意の「きつかけ確認」であり、  
大変重要視されています。  
希望職種(事務職や営業職など)だけに焦点を合わせた志望動機をよく見ますが、それ  
だけでは採用側には必要条  
件にはなっても十分条件とは  
感じてもらえず、印象にも残

一つ目はいわゆる企業研究です。その会社の扱っている商品、サービス、理念、業績、社風、将来構想などが対象です。ここでは企業のHPや説明会、店舗見学からみなさんが共鳴、共感したきつかけをPRします。  
二つ目は、企業への共鳴  
共感が単なるおうむ返しにならないよう、皆さん自身の体

験や普段思っている価値観と照らし合わせることで、どこかに企業への興味関心を持つた自身のきつかけが見つかるはず。  
三つ目は、入社したら、今まで培ってきた長所、身につけたこと、大切にしていることが、会社の求める人物像に合っていますよ、貢献できま  
すよと思ったきつかけを自己PRすることです。  
応募書類ではこの三点をできるだけ簡潔にまとめることが大切です。面接では、自身の考えた志望動機を暗記するのではなく、キーワードで押さえて一分間(約360-400文字)で話すように心掛けてください。採用側には、皆さんを等身大で感じてもらうはず。  
もし志望動機や自己PRが整理できないなどの悩みがあれば、一度自分なりに書いたものを持って、遠慮なく窓口でジョブサポーターに相談してください。応援します。

(JS 山内)

**登録会や面接、SPI対策も  
大阪新卒応援H/W JSがコーチ**

大阪新卒応援ハローワークは、各大学に来所を呼び掛ける登録会や、各種セミナーを実施している。梅田での登録会では、就職活動を進めるコツや面接での注意点などを伝授。セミナーでは履歴書の添削や仕事選びについての講



義、SPI対策を実施している。

9月21日には大阪樟蔭女子大学の3回生を対象にした「就活合宿」があり、大阪新卒応援ハローワークのジョブサポーター3人が履歴書添削と筆記試験対策としてSPIの攻略法を話したII写真。



とが突破の鍵になる」と話し、参加した20人が模擬試験に挑んだ。

講義では、「言語問題は満点を狙える。長文問題は設問から読み、語句問題は反射的に解けるように」とアドバイス。「SPIは出題傾向を知るだけでも得点力がアップする。問題集1冊を繰り返し解く」と改善すべき点を示した。

**「魅力と厳しさ知った」北区で業カフェ**

「第2回業界研究カフェ」が10月4日、大阪市北区の阪急ランドビルで開かれ、学生ら321人が金融や百貨店など各業界での仕事ややりがいについての理解を深めたII写真。

航空やアパレル、建設など13業種についてのブースが設けられ、各業界出身のジョブサポーターが経験談を交え、仕事内容や選考方法を伝えた。質疑応答では、各業界で求められる人物像や、やりがい、裏話などについて、真剣な表情で聞き入っていた。参加者からは「ネット上だけでは分からない、その業界で働いた経験者の意見・情報が得られた」「生の声で魅力と厳しさの両面を聞くことができた」などの声が上がっていた。